

日刊 建設工業新聞

8/27

木曜日

2009年(平成21年)

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

窓転回

古代インド様式の建物でも知られる東京の築地本願寺。市場とともに築地の顔ともなっているが、江戸時代の創建当初は、浅草近くにあった▼

移転のきっかけは、江戸市中を焼き尽くした「振り袖火事」(明暦の大火)での本堂の焼失。焼け野原になった街を見た幕府は、再整備の好機ととらえ、区画整理に乗りだす。本願寺には、現地での再建を認めず、代替地として築地を与えたのだ▼とはいえ、当時はまだ海の中。葦が生い茂る浅瀬だったという。「築いた「地」との地名の通り、門徒が中心になって海を埋め立て、そこから街が始まった▼工事で活躍したのが、つくだ煮で知られる東京・佃島の漁師たち。摂津から移り住み、苦労して干潟を埋め立てて佃島を築いた彼らには工事のノウハウがあった。故郷で西本願寺を信仰していたので、近くに本願寺が再建されることを喜び、技術と労力を惜しみなく發揮したと伝えられる▼佃島には、門徒のための「佃島説教所」が残る。法話などに使われていて、30日には寄席が開かれ、人間国宝の講談師・一籠斎貞水さんが、夏の終わりを怪談断り落し込む。